

赤米ニュース

第298号

(2022年1月31日)



東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

おしらせ	2380
おたより	2384
『赤米ニュース』第201号～220号総目次	2384
表紙解説：国分寺市の年中行事①一本多八幡神社のドンド焼き	2386

おしらせ

●今年も頑張りましょう

新年おめでとうございます。令和も4年目の年をここに迎えることになり、希望の2022年にしていくことができればと、私たちは願っております。コロナ禍はまだ続いており、自粛生活も3年目に入ることになりますが、頑張っけて乗り切っていきましょう。皆さんとともに当会は本年も引き続き、赤米栽培の普及と市民運動のサポート、情報発信のための活動に取り組んでいくつもりでありますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨2021年になされた諸活動を今、振り返ってみますと、コロナ禍の渦中にありながら実に活発な市民活動がなされており、大きな成果があげられております。東京都国分寺市内では例年通り、三つの市民団体を中心に、さまざまな活動が展開され、ユニークな取り組みもいろいろこころみられております。まずは坂本浩史朗さんひきいる国分寺赤米プロジェクトですが、初夏の田植えイベントに先立つ5月8日、赤米に関する勉強会をおこなうこととなり、「胡桃堂喫茶店」を会場としてそれが開催されました。講師として招かれたのは、法政大学の長沢利明さんです。集まった約20名のメンバーからは、「武蔵国分寺種」赤米稲の歴史や特色についての質問がどんどん出され、長沢さんがそれに答える形で、きわめて活発な質疑応答が2時間にわたっておこなわれました。

なお、勉強会の会場となった「胡桃堂喫茶店」では、この年の正月から2月17日にかけて「赤米フェア」を開催し、好評の赤米定植が例年通り供されましたが、新メニューと

して赤米茶・赤米甘酒プリン・赤米汁粉なども登場し、好評を博しました。赤米プロジェクトの育てた「武蔵国分寺種」赤米玄米の商品化もようやく実現し、「あかひめ」のブランド名で100g入りパックが店内で販売されるようにもなりました。全国四大赤米のうち、玄米の恒久的販売が実現したのは、「総社種」・「種子島種」に続き、「武蔵国分寺種」が3番目ということになります。2020年から販売が始まった「赤米フロランタン」も売れ行き好調で、2021年には国分寺市内6ヶ所の商店で買えるようになったことも、大きな前進といえるでしょう。

そしてもうひとつ、赤米プロジェクトの進めた2021年の最大の事業が、赤米ビールの開発です。メンバーらは昨年来、「武蔵国分寺種」赤米を原料とした赤米ビール作りを引き受けてくれる醸造所を、あちこち探し続けてきたのですが、国立市内の「Kunitachi Brewery」との交渉がまとまり、「東京オリンピックの開会式までに赤米ビールを作る」という夢がついには実現することとなりました。醸造担当者である斯波克幸氏さんらによるその後の試行錯誤が実を結び、6月にはついに赤米ビールができあがりました。

6月13日に青梅市富岡地区の水田で開催された赤米プロジェクトの田植えイベントで、その赤米ビール「あめにうたえば」がお披露目され、イベント参加者らの目の前で記念すべき初仕込みの赤米ビールが開栓され、皆に振る舞われました。赤米ビールは、この日から国立市内の「せきや」・「くにたち村酒場」などで、一般販売も始まっています。

なお、赤米プロジェクトが青梅市内に確保している数ヶ所の水田では、この年も引き続き

赤米プロジェクトによる自然農方式での田植えがにぎやかにおこなわれました(6月13日・東京都青梅市にて)。



き自然農方式での本格的な赤米作りがおこなわれ、秋には粳で100kg以上もの収穫を記録するに至りました。リーダーの坂本浩史朗さんは自ら青梅市内に転居され、文字通り赤米一筋の生活に入られました。その熱意には脱帽というほかありません。赤米プロジェクト主催によるこの年の新嘗祭と第3回赤米祭は、11月27日に国分寺市内の本町南町八幡神社にて開催されています。

次に、大石岳人さんひきいる赤米セミナーレですが、この年も国分寺市内の恋ヶ窪公民館を拠点に、赤米稲の共同バケツ栽培がおこなわれています。4月21日には新メンバーを迎えて定例総会も開催されましたが、2021年からは新たな取り組みとして、市立第九小

学校での赤米作りを会としてサポートすることとなり、九小校長の矢島英明先生も総会に出席されました。九小では5月21日に4年生2クラスが大型プランター約10個を用いて、「武蔵国分寺種」赤米稲の種まきをおこない、赤米セミナーレのメンバーがレクチャーと指導をおこないました。赤米稲は圃調に育ち、秋の11月4日には稲刈りと粳摺り体験が盛況になされています。

次には、龍神瑞穂さんひきいる国分寺赤米会ですが、この年もまた武蔵国分寺跡の赤米畑で、3年目の陸稲栽培がこころみられました。前年の2020年が不作であったことに踏まえ、その原因を究明すべく、この年には赤米畑の科学的な土壌調査が実施されることと

なり、東京農工大学の豊田剛巳教授の指導のもと、土壌の酸性・アルカリ性度（pH）および伝導率（EC）の定期的検査が自主的におこなわれるようになりました。毎週一度の継続的な定点観測の結果、土壌のpH値は7.0を上回り、アルカリ性に傾いていることがわかりましたので、冬場に硫黄散布などの土壌改良対策がなされていたのですが、その効果も出てきているようで、改善のきざしが確認されています。

市立第五小学校との連携事業である児童らの赤米作り体験のサポート活動もさかんにおこなわれ、この年は水田・陸田の両方で実施されました。水田の方は、五小校庭にあるかつての児童の足洗い場であったコンクリート槽2ヶ所をビオトープ化することになり、地元農家から提供された土をそこに入れて、小規模な田んぼが設けられることになりました。6月1日には5年生2クラスによる赤米稲の田植え実習が、そこでなされています。泥まみれになって初めての田植え経験に悪戦苦闘しながら児童らはよく頑張り、よい思い出になったことと思います。

その翌日の6月2日、今度は武蔵国分寺跡地の赤米畑で、やはり5年生2クラスによる赤米稲の種まき実習がなされました。橋本校長と2クラスの担任の先生方に引率された児童らは、徒歩で五小から畑まで移動し、赤米会のメンバーによる説明を受けた後、さっそく畑に入って班ごとに種籾をまいていきました。2021年の五小の赤米作りは以上のように、水稲・陸稲の両方式で実施されています。7月12日には校内での座学学習もおこなわれ、赤米の歴史についての長沢利明さんによる特別授業もなされましたが、毎度のことながら児童らの質問攻めには驚かされますし、関心

の高さを物語っています。

日本列島を襲った秋の台風9号の接近時には、赤米会のメンバーらが何度も畑へ緊急招集され、強風避けの支柱設置などの対策に追われました。さいわいにして被害は軽微で、9月10日には初回の稲刈りを実施することができました。10月5日には秋晴れの空の下、五小児童らによる学校をあげての盛況な稲刈り実習がおこなわれています。赤米稲は前年とは比較にならぬほどの見事な稔り方で、たわわに稔ったその稲穂を、児童らは石包丁を器用に用いて穂刈りにし、弥生時代の稲刈りを追体験することができました。千歯扱きによる脱穀作業や、播鉢による籾摺り体験もあわせておこなわれ、赤米会の20名のメンバーによって懇切丁寧なアドバイスがきめ細かになされました。盛りだくさんの野外体験を、限られた時間内に収めて完了させることができたのも、素晴らしいことでした。

赤米会ではそのほか、自主活動として、11月3日に赤米畑にて藁細工教室も開催しています。藁細工研究家の中田真紀子さんを講師に迎え、収穫後の赤米稲の藁を用いて、トウガラシの魔除け飾りやしめ縄を作りました。一方、新築移転の決定された国分寺市役所新庁舎の屋上に、赤米水田のビオトープを作ろうという提案が市民側から出されており、屋上緑化と雨水利用といった環境対策の一環として、その構想が市長への提言にまとめられています。それを受けて赤米会では8月、先進地事例の見学会を実施しており、東京都中央区銀座にある白鶴酒造東京支社ビルの屋上に設置された「天空農園」の視察をおこないました。白鶴酒造では2008年以来、屋上農園の本格的な整備に着手し、地元小学生らによる田植え・稲刈りイベントなども実施してお

り、そこで収穫された酒米を用いての日本酒造りなどもなされています。国分寺市役所の新庁舎屋上にも、赤米田んぼをぜひ作ってもらいたいものです。

以上、国分寺市内三団体の2021年の取り組みを紹介しつつ、ここに振り返ってみました。そのほかのできごととして、記憶にとどめておきたいこともいくつかあります。国分寺市内における赤米稲復活活動の最大の功労者であった武蔵国分寺跡資料館の学芸員、米村創さんが退職・転勤されていたことなどが、まずそうです。国分寺市内の歴史散策コースの拠点、「おたカフェ」で、「こくべじ赤米カレー」に加えて、「赤米キーマカレー」・「赤米スープカレー」の新メニューが登場したことなども、今思い起こされます。当会会員の画家、高橋寿子さんがこの年の春、六本木の国立新美術館で開催された第80回記念水彩連盟展に、赤米稲を描いた「夢想花」と題する作品を出品されたことなどもまた、忘れぬニュースでした。

2021年は、赤米作りに関する国分寺市内の市民活動が、コロナ禍を吹っ飛ばしつつ、最大限に展開された年であったといえるでしょう。この多大な成果を糧として、さらに前に向かって私たちは進んでいかなければなりません。決して無理をせず、できる範囲で地に足をつけて、ゆったりとした歩幅で、前進を続けていきましょう。2022年も素晴らしい一年となりますように、私たちは心から念願しております。そして、皆様のご健康とご多幸とを、本会は心からお祈り申し上げます。

●龍神瑞穂さんの赤米報告

国分寺赤米会では昨年来、国分寺市立第五小学校での赤米作りの指導を続けてきましたが、その活動報告を会長の龍神瑞穂さんが、このたびまとめて下さいました。掲載誌は『環境ひろば国分寺』158号（国分寺市環境ひろば・国分寺市・2021年10月17日発行）です。執筆者のお許しを得ましたので、その全文を以下に転載させていただきます。

武蔵国分寺種赤米 ～市立第五小学校の取り組み～

武蔵国分寺種赤米（あかごめ）は、平成9年、東恋ヶ窪の1軒の農家で栽培されているのが偶然発見されました。調査の結果、西日本の3箇所の神社（鹿児島県種子島の宝満神社、長崎県対馬市の多久頭魂神社、岡山県総社市の国司神社）で神饌米（神様へのお供え用）として栽培されている野生種に近い原始的なイネ（ジャポニカ種赤米）に近い種であることが判明、「武蔵国分寺種赤米」と命名され、保存、普及の各種取り組みが進められてきました。

その活動の一つに、市立第五小学校による取り組みがあります。同校では、「国分寺赤米会」の協力のもとで、昨年からの5年生の授業として校庭でのミニ水田、市有農地での陸稲（おかぼ）栽培に取り組んでいます。校庭のミニ水田は、6月1日に田植え、稲作についての学習（法政大学の長沢利明さんによる講義）、水管理や生育状況の観察などを経て、去る9月21日、秋晴れのもとで稲刈りを行いました。2クラス60人ほどの児童が、クラスごとになれない鎌を手し、稲を刈り取り、束ね、はさかけを行いました。近く千歯扱き（せんばこき）を使つての脱穀も行います。

（環境ひろば会員 龍神 瑞穂）



↑校庭の稲作風景

←赤米の稲刈り授業

おたより

●いつもありがとうございます(安本義正)
いつも『赤米ニュース』お送りいただき、ありがとうございます。長年のご活躍に敬意を表します。『赤米ニュース』を引き続き、お願いいたします(12/3:京都府京都市)。

『赤米ニュース』第201号 ～220号総目次

第201号(2013年12月31日)	
『赤米ニュース』200号記念報告:トウボシ語源考(Ⅱ)————長沢利明	1598
おしらせ(再度会員登録の更新のお知らせ, 国士舘大学の学生の皆さんへ)————	1602
おたより(中村周平:赤米栽培を希望します, 長沢利明:明日香村の古代米)————	1602
種子島宝満神社資料集(3)——長沢利明	1603
表紙解説————	1604
第202号(2014年1月31日)	
おしらせ(本年もよろしくお願い致します)————	1606
おたより(多久島實:去年は20種を栽培, 長沢利明:「九穀米」はおいしい!)————	1606
種子島宝満神社資料集(4)——長沢利明	1607
表紙解説————	1612
第203号(2014年2月28日)	
おしらせ(国士舘大学の学生の皆さんへ, 芋野郷の赤米だより)————	1614
おたより(鈴木誠:ネリカ米の栽培成功, 長沢利明:被災地へ古代米, 坂真矢子:来年も	

よろしく, 菅野郁雄:来年は休み, 藤村政良:芒のない品種を, 安本義正:おめでとうございます, 多久島實:賀春, 浜口景子:異動します)————	1614
種子島宝満神社資料集(5)——長沢利明	1617
表紙解説————	1620
第204号(2014年3月31日)	
おしらせ(今年度用の種籾の配布, その他の珍しい稲の種籾を配布します)————	1622
おたより(長沢利明:弥生時代の玄米)——	1623
種子島宝満神社資料集(6)——長沢利明	1624
表紙解説————	1628
第205号(2014年4月30日)	
4月の赤米作り————	1630
おしらせ(種籾の配布, まだ間に合います)————	1632
おたより(長沢利明:赤米藁の正月リース, 横山明子:本年もよろしく)————	1633
種子島宝満神社資料集(7)——長沢利明	1635
表紙解説————	1636
第206号(2014年5月31日)	
5月の赤米作り————	1638
おしらせ(赤米地名の研究論文)————	1640
おたより(浜口景子:五年生が赤米栽培をします, 長沢利明:特A38 銘柄発表)——	1640
種子島宝満神社資料集(8)——長沢利明	1641
表紙解説————	1644
第207号(2014年6月30日)	
6月の赤米作り————	1646
おしらせ(赤米種子の配布完了, 芋野郷赤米だより)————	1647
おたより(浜口景子:六年生もやることになりました, 長沢利明:今年はペニロマンも)————	1649
種子島宝満神社資料集(9)——長沢利明	1649
表紙解説————	1652

第208号 (2014年7月31日)

7月の赤米作り—————1654
 おしらせ(芋野郷赤米だより16号, 播種後
 10日目[5/5]の標準生育状況, 播種後20
 日目[5/15]の標準生育状況, 播種後30
 日目[5/25]の標準生育状況)—————1655
 おたより(鈴木誠:種子島種を…, 長沢利明:
 9個のバケツ稲)—————1656
 種子島宝満神社資料集(10)——長沢利明 1656
 表紙解説—————1660

第209号 (2014年8月31日)

8月の赤米作り—————1662
 おしらせ(播種後50日目[6/14]の標準生育
 状況, 播種後60日目[6/24]の標準生育
 状況, 播種後70日目[7/4]の標準生育状
 況)—————1663
 おたより(鈴木誠:種子をありがとう, 長沢
 利明:ご近所の皆さんのために)——1664
 種子島宝満神社資料集(11)——長沢利明 1664
 表紙解説—————1668

第210号 (2014年9月30日)

9月の赤米作り—————1670
 おしらせ(播種後80日目[7/14]の標準生育
 状況, 播種後90日目[7/24]の標準生育
 状況)—————1672
 おたより(小田富英:資料をありがとう, 長
 沢利明:今年も田んぼアート)——1672
 種子島宝満神社資料集(12)——長沢利明 1673
 表紙解説—————1676

第211号 (2014年10月31日)

10月の赤米作り—————1678
 おしらせ(播種後100日目[8/3]の標準生育
 状況, 播種後110日目[8/13]の標準生育
 状況, 播種後120日目[8/23]の標準生育
 状況, 播種後130日目[9/2]の標準生育
 状況, 東京都国分寺市で赤米展示準備)

—————1680
 おたより(浜口景子:今年はいまひとつ, 米
 村創:国分寺市の展示に協力を, 長沢利
 明:お役に立てれば)—————1681
 種子島宝満神社資料集(13)——長沢利明 1682
 表紙解説—————1684

第212号 (2014年11月30日)

おしらせ(会員登録の更新のお知らせ, 播種
 後140日目[9/12]の標準生育状況)——1686
 おたより(米村創:「武蔵国分寺種」乾燥中,
 長沢利明:今年は大豊作, 米村創:「武蔵
 国分寺種」展示準備中)—————1686
 種子島宝満神社資料集(14)——長沢利明 1687
 表紙解説—————1692

第213号 (2014年12月31日)

おしらせ(再度会員登録の更新のお知らせ,
 法政大学・国士舘大学の皆さんへ, 芋野郷
 赤米だより17号)—————1694
 おたより(多久島實:『赤米ニュース』送付よ
 ろしく, 遠藤滉弥:来年は僕もやります,
 長沢利明:野生稲と芸術作品)—————1694
 種子島宝満神社資料集(15)——長沢利明 1696
 表紙解説—————1700

第214号 (2015年1月31日)

おしらせ(本年もよろしくお願い致します)
 —————1702
 おたより(米村創:赤米が市議会に登場, 長
 沢利明:給食に赤米を, 鈴木誠:本年の収
 穫米を送ります, 米村創:赤米の情報発信
 を)—————1702

種子島宝満神社資料集(16)——長沢利明 1704
 表紙解説—————1708

第215号 (2015年2月28日)

おしらせ(芋野郷赤米だより18号, 第19回
 試食会)—————1710
 おたより(横山明子:種籾が採れませんでした)

た、米村創：お世話になりました、坂真矢子：今年もよろしく、瀬川洋子：昔の話を、西トミ江：赤米は広島で、山田義高：赤米、継続しています、多久島實：「武蔵国分寺種」の継続を、長沢利明：今年は一花) -1710
新春座談会：意外においしい！ネリカ米

—————金井塚正道・長沢利明 1712
種子島宝満神社資料集 (17) —長沢利明 1715
表紙解説—————1716

第216号 (2015年3月31日)

おしらせ (今年度用の種籾の配布, その他の珍しい稲の種籾を配布します) ———1718
おたより (米村創：今年もよろしく, 山田義高：ご無沙汰しております, 山田義高：種籾を送ります) —————1719

種子島宝満神社資料集 (18) —長沢利明 1720
表紙解説—————1724

第217号 (2015年4月30日)

4月の赤米作り—————1726
おしらせ (種籾の配布、まだ間に合います、前号の訂正) —————1728

おたより (辺牟木敬史：種子島が懐かしいです、境雅仁：葬儀の赤い米、岡村隆：黒米を食べています、藤村政良：給食に古代米を、長沢利明：現代のお米でガッカリ)

—————1729
種子島宝満神社資料集 (19) —長沢利明 1730
表紙解説—————1732

第218号 (2015年5月31日)

5月の赤米作り—————1734
おしらせ (国分寺市市議会報告) ———1736
おたより (米村創：試験栽培が実現します、長沢利明：今年も始まります！、浜口景子：小学校へ種子を) —————1738

種子島宝満神社資料集 (20) —長沢利明 1739
表紙解説—————1740

第219号 (2015年6月30日)

6月の赤米作り—————1742
おしらせ (国分寺市で試験栽培スタート, 芋野郷赤米だより 19号, 播種後 10日目 [5/4] の標準生育状況, 本誌前号の発行遅延のお詫び) —————1743

おたより (藤村政良：保存会も4年目, 長沢利明：順調なスタート) —————1745
種子島宝満神社資料集 (21) —長沢利明 1745
表紙解説—————1748

第220号 (2015年7月31日)

7月の赤米作り—————1750
おしらせ (国分寺市での試験栽培スタート, 播種後 20日目 [5/14] の標準生育状況, 播種後 30日目 [5/24] の標準生育状況, 播種後 40日目 [6/3] の標準生育状況)

—————1751
おたより (米村創：武蔵国分寺種順調, 長沢利明：ウキクサの大発生) —————1752
種子島宝満神社資料集 (22) —長沢利明 1753
表紙解説—————1756

[表紙解説] 国分寺市の年中行事①

—本多八幡神社のドンド焼き—

「武蔵国分寺種」赤米稲のふるさと、東京都国分寺市でおこなわれている年中行事の数々を、今年は紹介してみる。まずは小正月のドンド焼きの火祭りがあげられるが、他地方では左義長・トンド・道祖神祭りなどと称しているものの、東京都多摩地域では一般にセーノカミ (塞の神) 祭りと呼ばれてきた。村の中への悪疫の侵入を防ぐため、子供たちが掘って小屋を作った中にこもり、塞の神を祀りつつ、最後にはその小屋に火をつけて盛大に燃やす。その火で団子を焼いて食べると風邪を引かないともいう。写真は本多の八幡神社のドンド焼きだが、境内に集った氏子らが篠竹の先に団子を刺し、ドンド焼きの残り火で焼いている。